

第 1 回熊本博物館協議会

令和元年10月11日(金)午後2時

次 第

1 開会

2 委嘱状交付

3 教育長挨拶

4 委員紹介、職員紹介

5 会長、副会長選出

6 会長挨拶

7 議事

(1)平成30年度第2回博物館協議会意見に対する対応について

(2)平成30年度運営点検評価について

資料 :平成 30 年度熊本博物館運営点検評価報告

8 その他

令和元年度事業実施状況の報告について

9 閉会

※閉会后、秋季特別展覧会案内

令和元年度

第 1 回熊本博物館協議会

令和元年10月11日(金)午後2時

熊本博物館

目次

議事

(1) 平成30年度第2回博物館協議会意見に対する対応について・・・1

(2) 平成30年度運営点検評価について・・・・・・・・・・・・・・9

資料：平成30年度熊本博物館運営点検評価報告

その他

令和元年度事業実施状況の報告について・・・・・・・・・・・・・・33

議事(1)平成30年度第2回博物館協議会意見に対する対応について

(1) 平成 30 年第 2 回博物館協議会意見事項に関する答弁とその後の対応について

①塚原歴史民俗資料館の『上塚周平と上塚家の人々』展など、熊本市の偉人の掘り起こしとなる展示をこれからも行い、地域で総合的に評価できるようにしてほしい。

《答弁》

上塚修平の展示会では 1 度に 5 人の偉人を展示したが、スペースの関係上、各人物に対する資料が中途半端な面もある。今後は個々の人物を深めた展示を行いたい。

《その後の対応》

今後、関連する記念館等との連携も図りながら、郷土の偉人や郷土の発展のために尽くされた方々に関する展示会や講演会等が企画できないか検討していきたい。

(例：昨年度は小泉八雲に関する講演会を開催)

②学校教育支援事業のお迎えについて、希望が重なって実施困難な場合があったということだが、今後学芸員がより多忙になることを踏まえ、退職した学校の先生やボランティアを非常勤で雇用し対応するなどの方法も可能ではないか。

《答弁》

お迎え事業の希望が重なることがあれば、事前予約で対応時間をずらすなど、可能な調整をしている。現在はボランティア制度の導入はしていないが、今後必要に応じ検討していきたい。

《その後の対応》

学校教育支援事業に係る『館内学習プログラムの実施 (お迎え事業)』については、答弁通り、できる限りの日程調整を行いたいと考えている。また、それでも対応できない場合があるため、本年度の夏季休業中には教職員向け『館内学習プログラム解説研修』を 2 回 (終日) 開催し、先生方を介して子どもたちに展示資料の価値や魅力を伝えていただけるよう工夫した。支援事業だけでなく、各種イベント開催時におけるボランティアについては退職された先生方だけでなく一般市民や学生ボランティアも含め、活動を進めながら導入を検討していきたい。

例えば、子ども科学・ものづくり教室では年に数回、現役・退職の先生方に実技補助等で協力をしていただいているが、子どもたちにとってより身近な学生ボランティアによる定期的な支援をお願いできないものかと考えている。

- ③リニューアルオープン時に展示の間違いがあった。相互チェックをするなど注意してほしい。また、個人のブログで波奈之丸の天井画が見えない。また、ラフカディオハーンの地蔵祭りの展示が見栄えしないとの意見が掲載されていた。**

《答弁》

ご指摘を受けた時はすぐに調査し修正を行っており、今後も確認作業は繰り返し行っていく。

波奈之丸の天井画は保存の観点から照度を落としており、代替手段としてモニターで内部の様子を再現している。資料の継承のためご理解いただきたい。

地蔵祭りの展示は、当時子どもが手作したものをラフカディオハーンが感動したというエピソードの再現であり、その情景を再現したものである。

《その後の対応》

展示キャプション等については、館内の学芸班職員が検討会を重ねてきた（必要に応じて外部の識者にご意見を伺ったものもある）が、結果として誤りが見過ごされた部分があった。今後も職員間での相互チェックを怠らず、正確でわかりやすい情報発信に努める。

なお、ハーンの展示については、業者へ委託しトンボの作り物は目立つように、地蔵堂はお色直しを行った。

- ④以前より人文系が主体となり、理科の展示が物足りないなという印象。岩石・鉱物の展示が寂しく感じる。地質の日などの展示会や企画が多くあるようなので、それらで補ってほしい。**

《答弁》

理工系の展示は少なくなったが、今回整備した体験型の実験工作室で補っていきたい。常設展示で扱いきれなかった展示に関しては企画展・特別展等を活用して掘り下げていきたい。

《その後の対応》

常設展示ではスペースに限りがあるため、企画展やイベントを通して自然系の内容についても充実を図っていく。例えば、県内の企業・大学・博物館等が協働して『地質の日』関連の企画展を行っているが、本年度は当館を会場として開催したところである。

また、5月から夏季にかけても自然系の企画展・特別展を連続して開催し、冬季には国立科学博物館との連携展示会も企画している。

- ⑤通論考古学を講座で扱うのは良い。濱田耕作氏の著書「博物館」の中で、展覧会では必ず図録を作るべきという記述がある。学芸員の負担は増えてしまうが、何らかの形でリーフレットや図録を出してほしい。

《答弁》

展示において図録は重要と認識している。企画展でもパンフや図録など何らかの形のものを作成し、特別展では販売できるような図録を制作していきたい。これらは博物館での知的な活動の蓄積ともなる。

《その後の対応》

令和元年夏の特別企画展『世界の昆虫』では、子どもたちが家庭でも楽しく振り返り学習ができるように図録に替えて「昆虫すごろく」を作成し来場者に配布した。その他、特別展『追憶の熊本』『宮本常一展』などでも図録や解説パンフの作成を行うこととしている。

- ⑥これだけの企画を考えると学芸員は大変なのではないかと思う。人文系の展示では指定文化財となっているものなどあり、厳密に展示できる期間は決められている。公開期間が決められているその理由を、ぜひ来館者に説明して行ってほしい。

《答弁》

保存という観点で理解してもらえるようにしていきたい。企画事業の量に関しては学芸員の負担が大きいのではと心配をいただいたが、これまで5年間の長期休館していた責任を果たすべき時期として、働き方改革も考慮しながら職員全体で取り組んでいきたい。

《その後の対応》

指定文化財に関する啓発活動については答弁通り。本年度の活動を元に、職員の業務負担等も考慮しながら来年度以降の博物館事業について企画・立案・予算化を図っていく。

- ⑦展示資料を見ての感想が難しいとか簡単とか、展示の量が少ないとか多いとか、そういったものに偏りがちになる。来館者がどんなことを学んだかが重要。知識を一方的に教えるのではなく、来館者が自身の中で学びを深めていくように展示を作っていると思うが、そういうものが表に出てくるようにするにはどうしたらよいか考えていく必要がある。

《答弁》

今後検討していく

《その後の対応》

来館者の内面活動に関する部分であるため評価が大変難しいところであるが、今後の企画展等においては一般的な解説文だけでなく、来館者に問いかけたり学びを深めるヒントを投げかけたりするような解説を取り入れたり、ミュージアムトークの方法や内容を工夫したりして対応していく。

特に当館が春に実施した『きらめく！大名道具』展では武将隊に参加いただき、県立美術館と共同でリレーミュージアムトークを実施するなど、来館者が楽しみながら「得られて嬉しい情報、新たな発見につながる情報」の提供につながるよう工夫した。

- ⑧運営面について、平日の入館者は少ないと思うが、動植物園は夜間開園をしている。勤務世代が参加しやすい時間帯にプラネタリウムと実際に星を見るような企画なども検討してほしい。

《答弁》

リニューアルオープンの日、旧細川刑部邸のライトアップに合わせて夜間開館し、ナイトミュージアムを行った。今後も周辺施設の催しと絡めながら夜間開館等の企画を検討していきたい。

《その後の対応》

答弁通り。営業時間の夜間延長イベントについては、現在、秋の紅葉の時期の実施に向け、熊本国際観光コンベンション協会や周辺施設との話し合いを進めているところである。安全確保等に努めながら今後も実施していく予定である。

⑨博物館が知られていないという話があるが、ポスターやチラシなどの熊本博物館という文字の表示が小さいのではないか。熊本地震に関する展示もインターネットを見ればすぐに出るような情報ではなく、活断層と熊本地震がどのように関係しているなどもう少しきちんとした展示にした方がよい。また、売店の商品について大人が欲しくなるようなもの、昆虫展のときには昆虫標本や、化石や岩石・鉱物の標本などを置いたらどうか。また、火山の地質図や学会で販売しているような専門書などを置いてみてはどうか。

《答弁》

熊本博物館の文字が小さいとのことについては、今後デザインを行う中で注意していきたい。熊本地震の展示については、今後博物館としてどう見せていくのかということについては検討していく。売店の商品については、オープン時から売店側と協議も実施しており、今後も少しずつ変えていく予定である。

《その後の対応》

ポスター、チラシ等についてはデザインの中で博物館の文字もなるべく大きくなるよう工夫しており、今後も工夫していく。熊本地震については、今後も（何年経過しようとも）繰り返して取り上げていくべき内容であり、現在も『地質の日』関連展示会でふれている。

ショップのグッズに関しても、販売促進に向け、展示会やイベント、投映番組に関連するものも扱うようミュージアムショップに依頼し対応してもらっている。今後もミュージアムショップの魅力アップと充実に向けて協議しながら進めていく。

⑩入口の考古から歴史、民俗という中で動画を再生する機材があるので、地震に関するものも補完していけるのではと思う。総合博物館であるので概要は伝えないといけないし深堀もしないといけないので今後手法を考えていく必要がある。

《答弁》

今後検討していく

《その後の対応》

リニューアルオープン企画展の際に熊本地震に関するDVDを作成し放映した。このDVDは小学生だけでなく幅広い世代にとっても地震のメカニズムや災害に対する「不断の備えの大切さ」について啓発を行う資料となった。これまでに県立美術館や他の企画展等での貸し出し実績もあり、今後も様々な形で地震に関する情報提供に努めていく。

- ⑪学芸員は大変だと思うが、次の協議会で成果を発表してほしい。一般の方からの良い意見も悪い意見も受けとれるような仕組みはあるのか。**

《答弁》

前回基本方針で示したが、成果に対する評価と検証を次回お示しご意見をいただきたい。また、いろんな形でアンケートなどを取り、協議会の中でも議論していただきたい。

《その後の対応》

博物館協議会の中で運営の検証、評価について報告を行い、意見をうかがっていく。

- ⑫学校の先生からは展示・事業については好評である。お出かけ事業については教育委員会の e-net で、今月のプログラムのお知らせを掲示するとよいのではないか。**

《答弁》

今後検討していく

《その後の対応》

派遣授業（お出かけ事業）の月毎プログラムについては、当館 HP でも学年・単元・月別一覧表をアップしており、e-net（グループウェア）でも情報提供していく。ただし、館内行事との兼ね合いで実施可能日は急遽変更になることもあるため、「○月○日に◇◇プログラムでの GT 派遣可能」といった表記は避けたいと考えており、あくまで「○月の派遣授業プログラム例」として紹介したい（10 月以降）。

館内学習プログラム（お迎え事業）については、来館及び館内での実施が前提となる。どの時期でも学習可能であるため（予習・復習として）、博物館への来館予定日が決まり次第、早めにご連絡をお願いしたい。

議事(2)平成30年度熊本博物館運営点検評価報告について

1. 学芸活動
2. 博物館施設の利用と来館者サービス及び安全管理・火災・自然災害への対応
3. 市民参画・協働と他の博物館等との連携強化

〈平成 30 年度運営分〉
熊本博物館運営点検評価報告

熊 本 博 物 館

目 次

1	点検評価の概要・・・・・・・・・・・・・・・・	1
	（１）運営の点検と評価の趣旨・・・・・・・・	1
	（２）今回の運営の点検と評価について・・・・・・・・	2
2	運営状況の総括・・・・・・・・	2
	（１）主な学芸活動・・・・・・・・	2
	（２）主な施設の運営状況・・・・・・・・	2
	熊本博物館の事業施策体系図・・・・・・・・	4
	事業施策体系	
	Ⅰ 学芸活動・・・・・・・・	5
	（１）調査・研究活動・・・・・・・・	5
	（２）展示活動・・・・・・・・	6
	（３）教育・普及活動・・・・・・・・	8
	Ⅱ 博物館施設の利用と来館者サービス及び安全管理・火災・自然火災への対策 ・・・・・・・・	15
	（１）施設利用・・・・・・・・	15
	（２）来館者へのサービス、安全管理・・・・・・・・	16
	（３）火災、地震等の自然災害対策・・・・・・・・	17
	Ⅲ 市民参画・協働と他の博物館等の連携強化・・・・・・・・	18
	（１）博物館活動への市民参画・協働・・・・・・・・	18
	（２）熊本城とその周辺関連施設と他の博物館との連携強化・・・・・・・・	19

1 点検評価の概要

(1) 運営の点検と評価の趣旨

熊本博物館は昭和 27(1952)年に熊本城内(本丸)に開館し、花畑町の勸業館時代を経て、昭和 53(1978)年に現在の熊本城三の丸地区に、建築家・黒川紀章氏の設計により新築・移転しました。その後、建築からおよそ 40 年が経過し、施設の老朽化や社会の変化・進展に伴う展示技術の向上等に対応する必要が生じてきました。そこで、新たに施設機能と展示環境を見直すことで魅力ある総合博物館、政令指定都市にふさわしい熊本地域における中核博物館として多くの人々に親しまれる社会教育・生涯学習施設を目指し平成 24 年度からリニューアルを進めてきました。

このような経緯の中で、平成 25(2013)年 7 月から一部プラネタリウム等の投映は継続したものの常設展示施設は閉館し、平成 27(2015)年 7 月から改修工事を進め平成 30(2018)年 12 月 1 日、5 年 5 カ月にわたる改修工事を経て、にリニューアルオープンしました。

この度のリニューアルオープンに際しましては、熊本博物館の 4 つの理念である「広域情報型博物館」「市民開放型博物館」「郷土立脚型博物館」「人間密着型博物館」を踏まえ、これからの新たな博物館として、運営や活動の充実と向上を図っていく必要があります。

そこで、熊本博物館では『熊本博物館リニューアル後の運営方針(平成 30 年 11 月 12 日)』を策定し、この中の 5 章「運営の検証と評価」に記した内容について熊本博物館協議会に報告し、今後の運営の改善と充実を図るため意見を求めるものです。

(2) 今回の運営の点検と評価について

平成 30 年度は開館に向けた準備期間が大半で、実際の運営期間は 4 カ月間という短期間となりました。そこで、この期間の評価よりも次年度以降を見据えてどのような点が課題となり、今後どう対処していくかを中心に点検を行うこととしました。

運営の点検の期間：平成 30 年 12 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日

※ただし、運営上必要な事項については 12 月 1 日以前に実施した事項も対象としました。

2 運営状況の概要

熊本博物館は、5年5カ月の改修期間を経て平成30年12月1日にリニューアルオープンをしました。以下、リニューアルオープン前後に行った主な学芸活動、施設の運営状況について記します。

(1) 主な学芸活動

リニューアルオープンにあたりましては、常設展示のテーマを「未来へつなぐ熊本の記憶」として、熊本の歴史や文化、人と自然との深いかかわりを伝えるため、各分野合わせて約4,000点の展示を行い、長い時間の経過の中で得られた知の蓄積を市民に楽しく分かりやすく伝え、未来へ継承することを目指しました。

また、リニューアルオープンを記念した企画展も開催し、この展示では常設展示の全体テーマを踏まえ、テーマを「記憶を未来につなぐ博物館」として「記憶」「つなぐ」「未来」をキーワードに、時代を越えて受け継がれていく熊本博物館のあゆみと魅力を伝えました。

教育・普及活動では、特に小中学校での博物館活用の促進を図るため、リニューアルオープン前には小中学校長を対象に、新しくなった博物館の魅力を知っていただくための内覧会を行うなど、学校との連携強化に向けた取組を行いました。また、リニューアル工事のため休止しておりました小学5年生金峰山少年自然の家「集団宿泊教室」時のプラネタリウム学習投映につきましては、オープン翌日の12月2日から再開しました。

子ども科学・ものづくり教室は、設備を充実した新設の実験・工作室や講堂を主会場としてさらなる教室内容の充実を図りました。

情報発信については、リニューアルオープンに向けた広報活動を積極的行いました。また、オープン後は「熊本博物館ニュース」を毎月発行し、展示会や教室、講演会などの催しやイベント情報を小中学校等に配布するとともに、博物館の活動を広く市民に伝えるため新たに「くまはく NEWS LETTER」を年2回発行することとし、平成30年11月にはその第1号を発行しました。その他、当館HPや様々な情報媒体、チラシ等も活用しながら周知に努めました。

このほか、日米博物館コミュニティ形成事業（加入館：モンタナ州ロッキー博物館、カーター郡立博物館、阿蘇火山博物館、御船町恐竜博物館、熊本博物館等）に参加し、教育カリキュラムガイドブックも作成を行いました。

(2) 主な施設の運営状況

来館者サービスを向上させるために、受付・窓口業務においてアウトソーシングを行い、外国人への対応や文化観光拠点としての機能も併せ持つ窓口としました。また、以前は設

置されていなかったミュージアムショップも設置し、博物館関連グッズの販売などを行い来館者へのサービス向上と博物館の魅力アップに努めました。また、リニューアルオープンに合わせ従来の消防計画の見直しを行うとともに、オープン前には消防避難訓練を市中央消防署の立会のもと実施しました。

熊本城とその周辺施設との連携事業として「熊本城周辺美術館・博物館連携会議」を開催し、情報交換・共有を図るとともに、多言語対応の共通案内ガイドブックの作成を行いました。

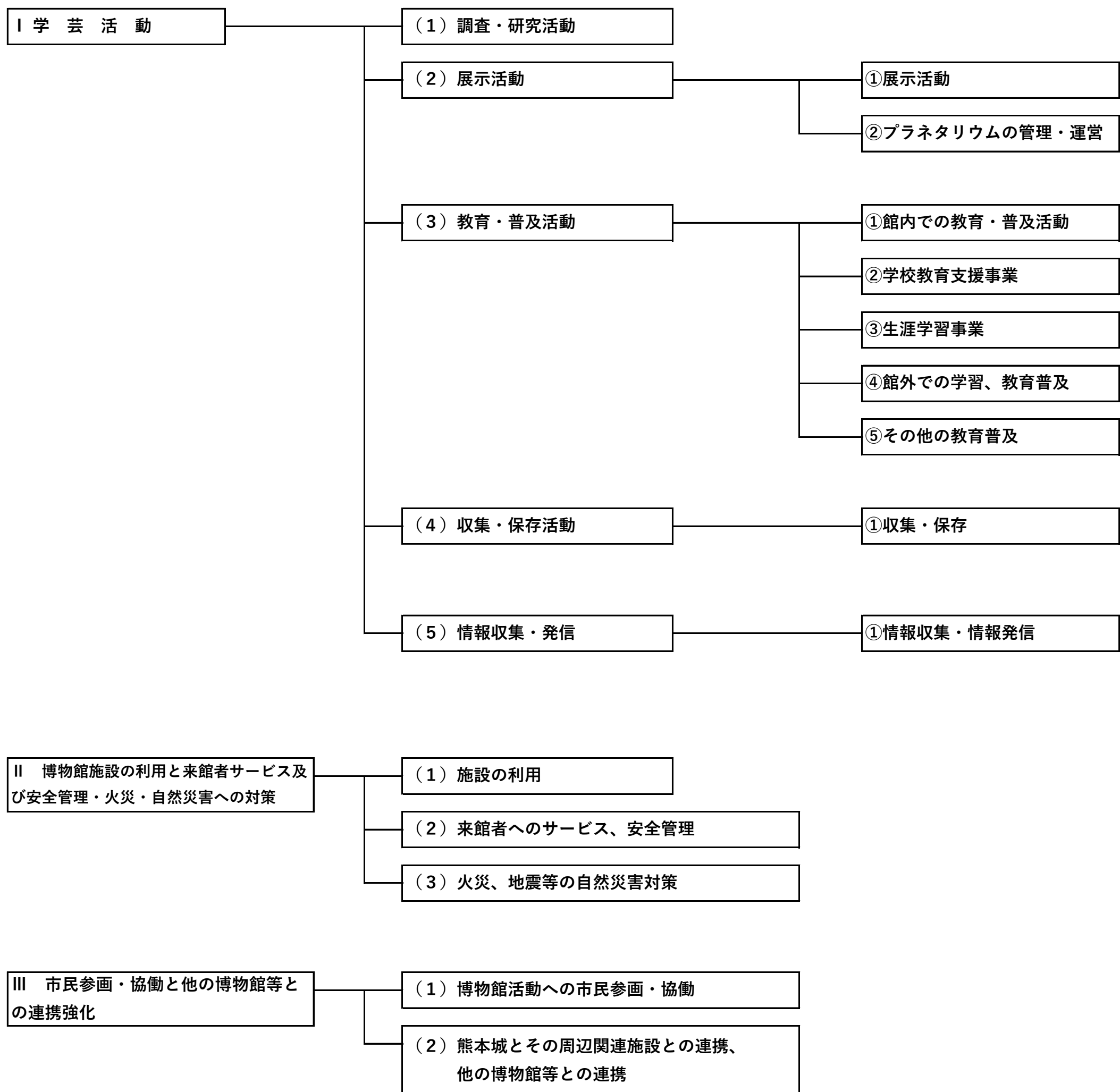
また、熊本県博物館連絡協議会の会長館として総会開催や加入館を対象とした研修も実施した。

区分	12 月	1 月	2 月	3 月	計
博物館入場者数	11,500 人	10,161 人	7,561 人	8,255 人	37,477 人
うち プラネタリウム観覧者数	7,067 人	6,931 人	5,024 人	5,579 人	24,601 人

○熊本博物館入場者数及びプラネタリウム観覧者数

【平成 30 年 12 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日】

〈熊本博物館の施策体系図〉



事業施策体系

I	学芸活動
(1)	調査・研究活動
①	調査・研究活動

2 事業の目的・実績

目的	熊本博物館は考古、歴史、民俗、美術工芸、地質、動物、植物、天文、理工、保存科学という分野で構成する総合博物館であり、これらの各分野における調査・研究を進め博物館の活動の質を高めていく。
実績	【調査研究における論文等を館報（2018年度報告）に掲載】 (1)熊本博物館の歴史とそれに見るこれからの地域博物館の在り方に関する考察 （内容）熊本博物館の設立以降の歴史の歩みから、人口減少社会、少子高齢化が進展していく中での地域博物館の在り方に関して考察。（館長 植木英貴） (2)平成17年度から平成23年度までの熊本博物館における実習の歩み （内容）博物館実習生へのアンケートをもとに実習内容の改善に努め、実習生の満足度の高めることができた状況をまとめ今後の改善につなげる。（学芸員 福西大輔） (3)重要文化財《木造東陵永瑱禅師倚像》修復について （内容）2018年度「日本の美再発見!文化財美術工芸品魅力開花推進事業費国庫補助」を活用した修復について報告。（学芸員 竹原明里） (4)その他、各分野の調査・研究方針は、館報（同）P33～34、P41に掲載

3 工夫と成果・課題等

取組において工夫した点	・リニューアルオープンに当たってこれまでの活動を整理し、今後の活動展開、調査・研究の方向性を探る手掛かりを得るよう取り組んだ。
取組による成果と平成30年度に残った課題	・今後の博物館活動の方向性や課題を整理することができたが、今後の運営改善・向上のほか、企画展等につながる各専門部門の調査・研究も次年度以降進めていく必要がある。
課題に対する今後の対応	・調査研究の成果が魅力ある企画展等の実施や学会での発表へとつながるよう博物館活動の質を高めていく必要がある。 ・また運営面に関しても中長期的な視点を持ち、市民サービスの向上やニーズに応えていけるよう研究し、課題整理をしていく必要がある。

事業施策体系

I	学芸活動
(2)	展示活動
①	企画展、特別展等の開催

2 事業の目的・実績

目的	常設展示や特別展、企画展等の開催を通し、市民や国内外からの観光客に対して魅力的な展覧・鑑賞の機会を提供する。
実績	【企画展・共催展の開催】 (1) 第10回「地質の日」企画『身近に知る熊本の大地』イベントの共催実施 期日：6月2日（土） 会場：びぶれす広場 約900人の参加 ・当館より、フズリナ石灰石の擦り出し体験ブースを出展 (2) 第52回肥後しゃくやく展の開催 期日：5月3日（木・祝）・4日（金・祝） 会場：塚原歴史民俗資料館 ・切り花にて15品種26点を展示 (3) 第58回肥後朝顔秋の展示会（共催展）の開催 期日：9月1日（土）・2日（日） 場所：熊本市動植物園 ・肥後涼花会会員及び熊本城総合事務所の出展により両日で計129鉢展示。写真、解説パネル等を設置し、会員による栽培法・鑑賞法等の解説が行われた。 (4) リニューアルオープン記念展『記憶を未来につなぐ博物館』展の開催 期日：12月1日（土）～平成31年4月7日（日） 会場：特別展示室 1.2.3 ・「記憶」「つなぐ」「未来」をキーワードに、時代を越えて受け継がれていく当館の歩みと魅力を伝える貴重なコレクションを中心とした記念展を開催 (入場者 ※37,477人) ※H30.12.1～年度末までの入館者数（記念展入場者数は未集計）

3 工夫と成果・課題等

取組において工夫した点	・特に、(4)のリニューアルオープン記念展については、各学芸員が展示テーマに沿って各種展示物の選定や展示方法を工夫した。また、市政だよりや当館HPだけでなく、新聞、ラジオ、タウン情報誌等、可能な限りの広報活動を展開し、周知・集客に努めた。
取組による成果と平成30年度に残った課題	・リニューアル効果・広報の効果もあって、例年と比較して冬場の入場者数・観覧者数は増加した。 ・記念展は全分野から展示物を出展したため、当館の収蔵品を一部紹介する機会にはなったが、総花的なイメージも否めなかった。
課題に対する今後の対応	総合博物館にふさわしいバラエティ豊かな各種展示会を開催するとともに、常設展示室においても定期的・部分的な展示替えを行い、多くの方々が何度も訪れたい博物館を目指す。また、各種展示会等の開催にあたっては様々な広報媒体を活用して周知を図り、来館者の増加につなげていく。

事業施策体系

I	学芸活動
(2)	展示活動
②	プラネタリウムの管理・運営

2 事業の目的・実績

目的	県内最大のプラネタリウム施設を活用し、学習投映、一般投映等を通して、天体や天文学についての情報発信と理解促進に努める。また、管理にあたっては解説技術の向上、内容の充実を図る。
実績	(1)一般投映及び幼児向けファミリーアワー投映と星空解説 ・一般投映『火星～その先の宇宙 スペースエクスポア』の投映 期間：12月1日～平成31年4月14日 （投映回数：346回） ・幼児・家族向けファミリーアワーの実施 幼児向け『キラキラ森のなかまたち』 (2) 幼稚園・保育園・小中学校向け学習投映・解説（31校・園） 内：小学校5年生集団宿泊教室に伴う学習投映（19校、1,633人） (3) ロケット打ち上げパブリックビューイング ・鹿児島県の内之浦宇宙空間観測所より打ち上げられたイプシロンロケット4号機のライブ中継をプラネタリウム室内のスクリーンにて投映（パブリックビューイング開催）。 ・実施日 平成31年1月18日 参加者130人

3 工夫と成果・課題等

取組において工夫した点	各種投映については、熊本市教育委員会指導課主催の「校長・園長会（年間5回開催）」や、宿泊教室担当者説明会等にも出向いて説明を行い、協力依頼・活用促進を図った。広報活動も各種媒体を通じて積極的に行った。
取組による成果と平成30年度に残った課題	各種投映だけでなく、天文講演会や日食観測会、当館初のロケット打ち上げパブリック・ビューイング等も実施し、幅広い世代の観覧者に対して天文分野に関する様々な情報提供ができた。プラネタリウムを活用した教育・普及活動の充実にも努めていきたい。
課題に対する今後の対応	新たな発見が相次ぐ天文学に関する知見を多くの人々に伝える魅力的な番組の導入や解説内容の充実を図っていく。 博学連携の一環として、プラネタリウムを活用した教師向け研修講座等も行い、さらなる利用促進につなぐ。

事業施策体系

I	学芸活動
(3)	教育・普及活動
①	教育・普及活動（館内での講座・講演会等）

2 事業の目的・実績

目的	各分野の調査・研究や展示活動とも連動しながら、その成果を講座・教室等で公開することにより生涯学習・学校教育・社会教育の充実に寄与する。
実績	(1)ミュージアムトーク（リニューアルオープン後、全12回：222人） 歴史・美術工芸・動物・植物・地質分野にて実施 (2)天文講演会（全2回：140人） ①12月15日「日本の月探査：かぐや計画からuzume計画」 JAXA 春山純一氏 ②3月21日「太陽系ヴァーチャルツアー 新・パノラマ太陽系」 国立天文台 縣（あがた）秀彦氏 (3)民俗：リニューアル特別講演会（33人） 「小泉八雲と熊本」 小泉八雲熊本旧居館長 坂本弘敏氏 (4)子ども科学・ものづくり教室（全26回：1432人） 理工分野を中心に、地質・植物・考古関連の内容も実施

3 工夫と成果・課題等

取組において工夫した点	リニューアル記念展や常設展示物と連動させることで、展示物の背景や魅力等に迫ることができるようにした。 天文分野においては、タイムリーな情報提供に努め、子ども科学教室では参加者の低年齢化に対応するため、細かな事前準備を行った。
取組による成果と平成30年度に残った課題	いずれも大変好評で、各分野の展示活動や調査・研究活動の一端に触れていただくことができた。 次年度以降も、魅力的な内容・テーマの講座・講演会・教室等の開催ができるよう、事前の連絡調整や準備のための時間・協力者等の確保が不可欠。
課題に対する今後の対応	年間行事を見通して、早めの準備・計画・実践を心掛けると共に、講座・教室等に関連する情報収集に努める。 子ども科学・ものづくり教室においては、内容の充実のために同様の教室開催経験を有する諸機関・団体（高専・大学・NPO等）との連携にも取り組む。

事業施策体系

I	学芸活動
(3)	教育・普及活動
②	学校教育支援事業（博学連携事業）

2 事業の目的・実績

目的	教材・学習材として価値のある資料及び、学芸員・研究員の専門性（知識・技能等）を活用し、学校教育支援に資する（主に、社会科・理科）。
実績	(1)ゲストティーチャー派遣授業【お出かけ事業】（5校：15単位時間） 派遣授業プログラム集（約90プログラム収録）をもとに、学校の要請に応じて学芸班職員を派遣し、学習・指導支援を行った。 (2)館内学習支援活動【お迎え事業】（4校：6プログラム） 館内学習プログラム集（全：50プログラム収録、2017年度末に配布）をもとに、要請に応じて館内学習活動の支援を行った。 (3)小学校理科実験・事故防止講習会支援（全小学校：92校対象） 市教委指導課主催の講習会に実技講師として参加し、安全かつ適切な実験方法・実験実技に関する指導・助言を行った。 (4)ICT（タブレット）研修協力：教育センター主催事業（2日：約80人） (5)学校（学年・学級）PTA活動支援（2校：216人） 「親子で楽しむ科学工作」講師 その他

3 工夫と成果・課題等

取組において工夫した点	学校教育支援事業の両輪である「お出かけ事業」「お迎え事業」の『プログラム集』を平成29年度末までに整備して全小中学校に配布するとともに、平成30年11月に改編した新規HPにも掲載して閲覧を容易にした。校長会等でも事業に関する連絡・紹介を行い、活用促進を図った。
取組による成果と平成30年度に残った課題	支援事業プログラムを活用していただいた教職員や子どもたちの反応は良好で、本事業が博学連携の核となる重要な取組であることを強く感じた（特にお迎え事業）。プログラム利用校の増加や、実施日時・日程調整等が課題である。
課題に対する今後の対応	派遣授業は年間10校（30時間）程度の要請が経常的に得られるよう、プログラムの実施時期に合わせて事前連絡等を工夫する。 館内学習については、新規事業「博物館⇄スクールシャトルバス事業」の中にプラネタリウム学習投映視聴と共に必須内容として組み込み、利用促進を図る。

事業施策体系

I	学芸活動
(3)	教育・普及活動
③	生涯学習事業（博社連携事業を含む）

2 事業の目的・実績

目的	他の社会教育施設とも連携を図りながら、各種の学芸活動の成果を幅広い世代に還元し、生涯学習への興味・関心と参加意欲の向上に資する。
実績	(1)通年講座「金峰山の地質」（隔月：年5回開催、延べ104人） 野外観察を通して、金峰山の地質と成り立ちを学ぶ事業で、熊本県博物館ネットワークセンターとの共催事業として行った。 (2)公民館等の講座支援（5講座：244人） 託麻公民館、中央公民館、森都心プラザ図書館では科学工作や実験ショーを、北部公民館西里分館では水生生物について、秋津公民館ではアンモナイトについて学ぶ講座の講師を務めた。 (3)自然観察会の実施（5回：157人） わくわくえづっこ塾、熊本野生生物研究会等の依頼により講師を務めた。 (4)天体（火星・月・星座等の）観測会（3回：146人） 水前寺江津湖公園、立田山野外保育センターの依頼で講師を務めた。 (5)その他（ミュージアムキッズ in 京都）2日：802人 など

3 工夫と成果・課題等

取組において工夫した点	館内業務を調整しながら、可能な限り協力・支援ができるよう努めた。
取組による成果と平成30年度に残った課題	各自の業務と関連のある社会教育施設との連携が少しずつ深まってきた。 各分野ごとに、内容的にも回数的にもどの程度の連携事業が可能なのか、通年業務を経て判断していく必要がある。
課題に対する今後の対応	当館から出向していく事業だけでなく、他館・他施設の職員を当館に招いて行うことができる事業の可能性を探る。 令和元年度（2019年度）に実施を予定している各業務の実績や評価をもとに本事業に関する内容の再検討を行う。

事業施策体系

I	学芸活動
(3)	教育・普及活動
④	館外での学習、教育・普及（HP等での情報提供）

2 事業の目的・実績

目的	当館HP等を活用し、来館しなくても熊本の歴史や自然について学ぶことができるよう収蔵品データベース等の充実を図り、館外における学習や研究活動、館外講座等での利用促進に寄与する。
実績	(1)新規情報システムへのデータベース移設 地質、動物、植物、理工、考古、歴史、民俗：全13万点余り (天文、美術工芸も含む) (2)新規HPにおける閲覧可能なデータベース等の公開 収蔵品検索システムの再構築、館報バックナンバー、博物館ニュースレター・関連施設のリンク集等の掲載 (3)HPトップ画面上部に必要な情報を網羅する画面構成の実現 利用案内、展示案内、プラネタリウム、講座・教室、学校の先生方へ、収蔵品検索・情報、各種申請 など

3 工夫と成果・課題等

取組において工夫した点	情報システム担当者が窓口となり、全職員（特に学芸班職員）の意見を集約しながら掲載すべき情報や画面構成等について協議を重ねた。
取組による成果と平成30年度に残った課題	C-ネットパソコンから各自に割り振られたID・パスワードでHP更新画面に移り、情報の更新・提供が容易になった。 利用者が資料を検索しやすい項目設定に関する検討が必要。
課題に対する今後の対応	HP閲覧者の立場で、閲覧者が必要な情報とはなにか常に考えながら、可能な限り早く正確な情報を発信していくことに努める。

1 事業施策体系

1	学芸活動
(3)	教育・普及活動
⑤	その他の教育・普及活動

2 事業の目的・実績

目的	当館の施設機能や学芸員等の専門性を活かし、博物館実習生の受け入れをはじめ教職員を対象とした研修会の実施、その他、職場体験学習の場として中高生等の受け入れにも応じ、求められる資質・能力の向上に寄与する。
実績	※平成30年度中は、リニューアルオープンを12月に控えていたため、博物館実習生、職場体験生の受け入れを行わなかった。 (1)博物館実習生受入れ準備 HPにて「2019年度：博物館実習生の受け入れ」を周知し、応募のあった全14人に対して「受け入れ決定」を通知した。 実習期間：令和元年（2019年）8月27日（火）～9月1日（日）：6日間 (再掲) 小学校理科実験・事故防止講習会支援（全小学校：92校対象） 小学校の理科主任（担当者）に対して、安全かつ適切な実験方法・実験実技に関する指導・助言を行った。

3 工夫と成果・課題等

取組において工夫した点	平成31年3月末時点現時点で未実施のため「特記事項なし」
取組による成果と平成30年度に残った課題	同上
課題に対する今後の対応	※博物館実習については令和元年度から受け入れ実施。

1 事業施策体系

1	学芸活動
(4)	収集・保存活動
①	収集・保存

2 事業の目的・実績

目的	当館の事業展開に必要不可欠なものの収集を行うと共に、収蔵保存管理、収蔵品の補修等実施し、博物館活動の充実と収蔵品の保存管理に努める。また、収蔵品のデータベース化を進め、一般公開も含め広く収蔵資料の活用を図る。
実績	(1)資料の収集 ・収蔵実績（館報2018年度報告、P35～37に記載） (2)収蔵品の収蔵管理 展示室・収蔵庫環境管理の実施 総合的有害生物管理（IPM）の実施 (3)保存修理事業関係 ・永青文庫所蔵「細川家舟屋形解体移築事業」 熊本城復旧計画と博物館リニューアル計画に合わせ、国指定重要文化財「細川家舟屋形（永青文庫所蔵）」の博物館内展示室で組立作業を行った。 ・その他、館報（同）、p 37に記載

3 工夫と成果・課題等

取組において工夫した点	・資料収集については、将来的に展示可能なもの、学術的な価値の高いものを中心に収集を行った。 ・収蔵管理については、リニューアルオープンを果たしたばかりであり、日常的なIPMに努め、各展示室、核収蔵庫の現状把握を行っている。 ・保存修理事業については、優先順位を決め、計画的な修復を進めている。
取組による成果と平成30年度に残った課題	限られたスペース、予算の中で、資料の収集・管理・修復等に取り組むことができた。ただし、リニューアルした館内環境の改善、向上に関する取組は始めたばかりで、資料保全のための人的、物的な整備が不可欠である。
課題に対する今後の対応	IPMに関する情報（対策）を全職員で共有し実践化する。また資料保全のため人的、物的な整備を図る。

1 事業施策体系

1	学芸活動
(5)	情報収集・発信
①	情報収集・情報発信

2 事業の目的・実績

目的	熊本博物館における展示資料や展示会、講座・イベント情報など、様々な媒体を活用し、広く県内外へ情報発信するとともに他館に関する情報収集も行い博物館活動に活かしていく。
実績	・リニューアルオープンに際しては電車での広告、水道町での懸垂幕設置、市政だより11月号による特集、市広報番組による広報、その他報道機関等の協力を得て、新聞、テレビ、ラジオで広報を行った。 ・常設展示ガイドブック、リニューアルオープン記念展パンフレットを作成し、頒布及び配布を行った。 ・館内案内リーフレット（4カ国語で作成）を作成し、来館者に配布した。また、館内施設案内も合わせて作成し適宜配布を行った。 ・リニューアルを機に、展示会や教室・講座等の開催報告、学芸員の活動などを紹介し、当館の魅力を広く市民等へ発信するため、新たに『くまはくNEWS LETTER』の発行を開始した。第1号は11月に発行。 ・「熊本博物館ニュース」を毎月発行し、博物館展示会や講座、教室などの案内を行っている。小中学校への配布、市関係施設等へ配布するとともに館内でも布を行っている。 ・熊本博物館ホームページによる広報、市ホームページやフェイスブック、市政だよりを活用し情報提供を行った。

3 工夫と成果・課題等

取組において工夫した点	・リニューアルオープンに向けての広報についてはポスター、チラシのほか、市政だより、市政広報番組等の活用を図った。また、報道機関等の協力を得てテレビ、ラジオ、新聞等での広報を行うことができた。また報道機関に対しては、オープン前の11月20日に内覧会を行い周知を図った。 ・これまでの『博物館ニュース』に加え、新たに『くまはくNEWS LETTER』の発行を開始し博物館の魅力を多くの媒体を使って伝えるようにした。
取組による成果と平成30年度に残った課題	・リニューアルオープンに関する市民への周知については市政だより特集号（11月）による全戸への広報のほか、報道機関の協力による情報発信で広く周知を図ることができた。 ・今後は博物館での展示会、教室、講演会などの催しやイベントなどについて、あらゆる媒体を活用し県内外へ周知を図っていく必要がある。
課題に対する今後の対応	・当館独自の広報活動のほか、市政だより等はもちろん報道機関等への情報提供を行い、さらに積極的な広報に努めていく。 ・また、熊本城周辺施設との連携や熊本国際コンベンション協会等との共同イベントの開催など、博物館単体ではなく共同での催しも企画するなど、様々な方法で博物館の魅力を県内外に発信していく。

事業施策体系

Ⅱ	博物館施設の利用と来館者サービス及び安全管理・火災・自然災害への対策
(1)	施設利用

2 事業の目的・実績

目的	来館者の安全確保に努め、誰もが安心して気軽に博物館を訪れたり、活用したりすることができるようにするとともに、公開承認施設を目指し、博物館施設管理の徹底を図る。
実績	○展示室、講堂、実験・工作の利用 ・「公開承認施設」を目指し、当館管理のもとで特別展示室1・2・3、常設展示室、収蔵庫等の環境検査等を行いながら展示環境の整備を行った。特にリニューアルオープン記念展はリニューアル改修工事終了後、初の展示会でもあり、本館収蔵品を中心に展示を行い、途中一部展示替えをしながら展示環境の変化に注意を払った。 ・講堂、実験・工作室においては、博物館主催・共催、また学芸員等が参画する講演会、講座、研修会等に使用した。また小中学生を対象とした館内学習プログラムをはじめ、教職員を対象とした研究会にも使用した。 ※詳細は、館報（2018年度）に記載

3 工夫と成果・課題等

取組において工夫した点	・平成27年7月以来の全館開館であり、多くの来館者を想定し、常設展示室や特別展示室での来館者の動線や展示環境の変化にも注意を払いながら取り組んだ。 ・貸会場制度は中止し、講堂、実験・工作室の使用の際には、講演会やイベント、教室ごとに適切な収容定員を設けたり、いすの配置、案内など工夫した入りして、今後の活動の参考となるよう取り組んだ。
取組による成果と平成30年度に残った課題	・多くの来館者を迎えるにあたって、館内の混雑状況がどのようなになるか、また展示環境）がどう変化するかなど、4カ月間の運営は次年度の参考となった。 ・講堂、実験・工作室の利用においても、催しやイベント、教室ごとの内容に合わせた適切な人員や安全な動線づくりなどに努めた。今後はさらに安全で適切な利用に向け工夫していく必要がある。
課題に対する今後の対応	・平成30年度はリニューアルオープンの年度であり、実際の来館者の動きや展示環境の変化に注視することが第一の目的であった。今後は来館者への対応や展示環境の変化により一層気を配りながら、各展示室等の適切な環境整備や管理、施設の安全かつ適切な運用を図っていく。

事業施策体系

Ⅱ	博物館施設の利用と来館者サービス及び安全管理・火災・自然災害への対策
(2)	来館者へのサービス、安全管理

2 事業の目的・実績

目的	安全で誰もが安心して気持ち良く訪れることができる博物館づくりに取り組む。
実績	(1)受付窓口の対応 ・受付窓口に係員を配置し、入場券販売機の案内、減免対象者の案内等、館内へのスムーズな誘導に努めた。また開催されている展覧会や催しイベントなどの案内等も行った。また、この受付窓口において団体受付も行うなど、対応の一元化を図った。 ・館内受付案内では、三の丸地区の観光案内拠点とするため観光案内機能を持たせ、来館者へ案内を行った。 (2) エントランスの利用 ・エントランスには休憩用ソファやイスを配置するとともに、当館として初めてミュージアムショップを設置し、来館者のサービスの向上に努めた。また、館内は飲食禁止としているが、来館者が飲料補給ができるようエントランス区域のみ飲料は可として、ミュージアムショップと協力してによる飲料水の提供やエリアの周知徹底を図った。 (3) 南側玄関の活用 ・南側玄関は団体客入場口として運用するとともに、これまで同様、身体障がい者用駐車場も設置し、入場できる利便性を図った。 ・車いす（3台）を配備し身体障がい者の方、高齢者の方等がいつでも利用できるよう配備している。またベビーカーも配備（4台）し来館者へのサービス向上を図った。 (4)館内の安全管理 ・開館日には警備員1名を常駐させ、来館者の安全管理・安全確保に努めるとともに、不審者の侵入 監視、閉館後の施錠確認等の徹底を図った。

3 工夫と成果・課題等

取組において工夫した点	・窓口対応や館内案内についてはアウトソーシングを図り対応の充実が図られ、また観光案内の拠点ともすることができた。この窓口において団体受付も一元化することで一括管理が可能となった。 ・ミュージアムショップを設置することで、エントランスの賑わいや博物館の魅力向上を図った。
取組による成果と平成30年度に残った課題	・窓口案内業務をアウトソーシングすることで、外国の方々に対しても丁寧な来館者対応が可能となった。 ・ミュージアムショップ設置は博物館の魅力を向上させるうえで効果があった。今後はミ博物館のミュージアムショップとしてふさわしい、来館者の興味を引くグッズの充実・開発に向けて業者と協議を進めていく必要がある。
課題に対する今後の対応	来館者案内、入場券の販売対応などは博物館職員も含め、さらに親切で丁寧な対応に努めていく必要がある。 ・ミュージアムショップの商品については、業者と博物館職員両者でアイディアを出し合い、来館者の求めるグッズづくりと販売促進を図っていく。

事業施策体系

Ⅱ	博物館施設の利用と来館者サービス及び安全管理・火災・自然災害への対策
(3)	火災、地震等の自然災害対策

2 事業の目的・実績

目的	万一の火災や地震等の自然災害から来館者の安全を確保するとともに、展示資料及び収蔵資料の保護・保全を行う。
実績	(1)リニューアルオープンに合わせた消防計画の見直し ・リニューアルオープンに当たり従来の消防計画の見直しを行い、地震への対応を追記した。また合わせて塚原歴史民俗資料館の消防計画の見直しを行い、体制の整備を図った。 (2)消防訓練及びAED研修の実施 ・博物館のリニューアルオープン前の平成30年11月12日に消防避難訓練を、市中央消防署指導課立ち合いの下で実施した。また、合わせてAED（自動体外式除細動器）の使用方法についてメーカ担当者を講師として研修を行った。

3 工夫と成果・課題等

取組において工夫した点	・リニューアルオープンに際し、消防計画においては火災だけでなく地震災害への対応も追加記載した。また、塚原歴史民俗資料館の消防計画においても同様の対応を行った。 ・リニューアルオープン前には職員全員で避難訓練及びAED研修を行い、来館者の安全確保や有事の際の対処の仕方の理解を深めた。
取組による成果と平成30年度に残った課題	・リニューアルオープンに合わせて消防計画の見直しを行ったが、今後もそれに基づいた定期的な避難訓練やAED研修を継続して実施し、有事の際はもとより、常日頃からの来館者の安全確保に万全を期すよう備えていく必要がある。
課題に対する今後の対応	・来館者の安全確保や収蔵品の保全にむけ、消防署等の指導・助言も受けながら様々なパターンで避難訓練等定期的に実施していく必要がある。

事業施策体系

Ⅲ	市民参画・協働と他の博物館等との連携強化
(1)	博物館活動への市民参画・協働

2 事業の目的・実績

目的	博物館活動において市民参画・協働による活動を展開し、市民に親しまれる博物館活動を行い、市民と共に発展しくことを目指す。
実績	※博物館ボランティア等の参画については、平成30年度においては実施していない。

3 工夫と成果・課題等

取組において工夫した点	—
取組による成果と平成30年度に残った課題	博物館活動への市民参画・協働については、博物館の広がりや発展に重要であるため、今後、その体制構築について検討していく必要がある。また、博物館ボランティアとして各分野で一定の専門性をもって活躍いただけるよう、博物館としても人材育成に努めていく必要がある。
課題に対する今後の対応	リニューアルオープン後に開催する講座や教室等を通して、市民とのつながりを深めるとともに、参加者の専門的な知識や技能の向上を図るなど人材育成にも努め、館内ボランティア活動への参加を促していく。そのような中で自主的、自立的な市民参画・協働の体制づくりを進めていく。

1 事業施策体系

Ⅲ	市民参画・協働と他の博物館等との連携強化
(2)	熊本城とその周辺関連施設と他の博物館との連携強化

2 事業の目的・実績

目的	熊本城周辺の文化施設及び観光部署が連携し、熊本城をはじめとした「熊本の歴史・文化の魅力」を情報発信し、国内外の観光客や教育旅行の拡大や、上質で伝統ある熊本文化の魅力や価値を積極的に発信してく。また、県内外の博物館との連携やネットワーク構築を図り質の高い博物館活動につなげる。
実績	(1)熊本城及びその周辺関連施設との連携 7月19日に「熊本県伝統工芸館、熊本県立美術館、熊本博物館、熊本市現代美術館、熊本城総合事務所、熊本城ミュージアムわくわく座及び熊本市観光政策課、熊本県文化課」による連携会議を平成29年度より実施しており、本年度は7月19日、1月31日に現代美術館アートロフトにて開催し国際スポーツ大会への連携した取り組みを検討。「多言語対応の共通ガイドブック」を作成することとして表記内容や活用方法の意見交換を行い、更なる熊本城域の一体的な連携強化を図った。 (2)熊本県内博物館、美術館、記念館等との連携 ・熊本県博物館連絡協議会の会長館として6月29日に山江村農村環境改善センターにて総会を開催するとともに、2月6日に当館にて掛け軸、武具等の取り扱いに関する研修会を実施した。 ・熊本市小泉八雲熊本旧居との共催で当館にて1月27日講演会を行い、当館の八雲関係の展示と小泉八雲熊本旧居とのネットワーク強化を図った。 (3)県外博物館、研究機関等との連携 日米博物館コミュニティ形成事業として、5月7日～5月15日の期間にアメリカ合衆国モンタナ州において、形成事業参加館で共通して出前授業などに利用できる教育カリキュラムガイドブックを作成するための「日米自然科学博物館事業授業評価」へ参加した。 ※日米博物館コミュニティ形成事業：モンタナ州と熊本県にける地域固有のフィールドにおいて活動している自然系博物館等によるネットワーク形成事業（参加館 モンタナ州：ロッキー博物館・カーター郡立博物館 熊本県：御船町恐竜博物館・熊本博物館・御所浦白亜紀資料館・阿蘇火山博物館）

3 工夫と成果・課題等

取組において工夫した点	・熊本城域の周辺関連施設や、行政観光部署、観光協会等と展覧会、イベント情報等の情報交換を行い、連携した広報や取り組みを実施し、広報に関する相乗効果を図った。また、それぞれの事業が一過性のものにならず、継続した事業として定着・発展するよう提起的に連絡を取り合っている。 ・博物館常設展示の関わりの中で、市の記念館と連携して講演会事業を行った。
取組による成果と平成30年度に残った課題	・市の記念館との連携事業を行うことで熊本の歴史への理解を市民に深めてもらう機会となった。今後も継続して連携強化に努めたい。 ・熊本城及びその周辺関連施設における連携事業として「共催事業、連携展示、連携広報」などを実施、今後も更なる取り組みの強化を図る。

課題に対する今後の対応	・各施設や観光振興部署等との定期的な情報交換により情報共有を図り、より効果的な広報・イベント企画等を計画的に実施できるように取り組む。 ・県内外及び近隣博物館・資料館・美術館等の文化施設との連携事業をすすめ、共同でそれぞれの館の魅力を高めていく必要がある。
-------------	---

その他 令和元年度事業実施状況の報告について

展示関連講座

美術分野講座（年2回）

- ・9月14日（土） 10：00～11：00
《追憶の熊本》展へ向けて（仮）
- ・2020年2月15日（土） 10：00～11：00
クマハクのア・シ・ギ？その1ー美術編ー（仮）

秋季特別展「追憶の熊本」関連講座・企画

- ・10月12日（土）13：30～15：30
講演会（講師：熊本大学名誉教授 伊藤重剛先生）
- ・10月26日（土）13：30～15：30 町並探索
（案内人：熊本大学名誉教授 伊藤重剛先生、当館学芸員）

そのほか、会期中に「NPO法人熊本まちなみトラスト」講演会なども実施を予定しています。

上記の講座・企画は毎回申し込み方法が異なりますので、詳しくは直近の市政だよりや当館HPにてご確認ください。

ミュージアムトーク

※申し込み不要
学芸員による展示解説です。実施についての詳細な日時は開催月に当館HP等にてお知らせいたします。



2019年度 通年講座・教室一覧 展示会スケジュール

各講座・教室の受講の際には博物館入場料が必要です。
通年で受講される方は年間入場券をお勧めいたします。

通年講座の申し込み方法

・往復はがきの場合

往復はがきに講座名、住所、氏名、年齢、電話番号を書いて熊本博物館まで郵送（〒860-0007 中央区古京町3-2）

・ホームページの場合

博物館ホームページ（<https://kumamoto-city-museum.jp/>）
の申し込みフォームに必要事項を入力
場所：トップ画面＞講座・教室＞お申し込み

定員（各講座40名）を超えた場合、抽選にて決定いたします。

締切日以降の申し込みについては直接博物館（096-324-3500）にお尋ねください。

※講座の内容や定員の空き状況次第では受け入れ可能な場合があります。

2019年度 開講 通年講座

考古学専門講座

考古学のバイブル『通論考古学』を読みます
月末の水曜日、もしくは木曜日を中心に実施（年間9回）
初回 5月29日（水）13：30～ 講堂
申込締切日 2019年5月13日（月）（必着）

民俗学講座

年中行事、伝説、民俗芸能などを学習します
5月～翌年2月の第2火曜日を中心に実施（年間10回）
初回 5月14日（火）10：30～ 講堂
申込締切日 2019年4月12日（金）（必着）

動物学講座

身近な生きものに関する室内講座と観察会です
毎月第3土曜日を中心に実施（年間12回）
初回 4月20日（土）10：00～ 実験・工作室
申込締切日 2019年4月12日（金）（必着）

植物学講座

身近な野草・樹木などについて学ぶ講座です
毎月第4木曜日を中心に実施（年間8回）
初回 5月23日（木）10：00～ 講堂
申込締切日 2019年5月13日（月）（必着）

地質学講座

化石や岩石、熊本の大地に関する室内講座です
偶数月の第3日曜日午後を中心に隔月実施（年間6回）
初回 4月21日（日）14：00～ 実験・工作室
申込締切日 2019年4月12日（金）（必着）

⇐通年講座の申し込み方法は紙面中央をお読みください。
2回目以降の開催日時等の詳細は講座中や電話にてお知らせいたします。
各講座参加無料ですが、受講の際には博物館入場料が必要です。
通年で受講される方は年間入場券をお勧めいたします。

子ども科学・ものづくり教室



小中学生を中心に『不思議の種まき』をします。
実験や科学工作などの直接体験を通して、その楽しさを伝えながら身の回りの様々な事象に対する興味・関心を高めていきたいと願っています。
ぜひ、ご参加ください！！

毎回テーマによって申し込み方法が異なりますので、詳しくは直近の市政だよりや当館HPにてご確認ください。

2019年度 展示会スケジュール

2019年3月時点での展示予定です。
都合によりタイトルや会期など
一部変更する場合があります。

①企画展 4月20日(土)～7月7日(日)
きらめく！大名道具 - 細川家の「華」と「武」の世界 -

公益財団法人 永青文庫所蔵資料のうち、当館が管理している調度品や武具類を展示します。今回は、熊本県立美術館との“初”連携企画展として同時開催いたします。この機会に、ぜひ両館でご鑑賞ください。

白糸威二枚胴具足（永青文庫所蔵）



②共催展 5月12日(日)～6月2日(日)
地質の日企画『身近に知る「くまもとの大地」』

熊本県内の大学や博物館、地質関連団体が合同で、熊本の大地をテーマとした岩石・化石などの展示を行います。
※5月11日(土)は、上通「びぶれす広場」にて関連イベントを実施します。



③企画展 6月8日(土)～7月7日(日)
自然のおいしい味わい方

身近にいる“実は食べてみると美味しい”生きもののレシピや、人の食生活と関わり深い生きもの、果ては自然にある美味しそう！？な石など、博物館的な視点で「自然と食」について考える展示会です。



④夏季特別展
大昆虫博2019
7月20日(土)～8月25日(日)

世界の美しい昆虫や珍しい昆虫、熊本県内でみられる身近な昆虫などの標本を展示し、それら昆虫たちの知られざる魅力などを紹介します。昆虫カメラマン栗林慧氏が虫の目線で撮影した大迫力の巨大昆虫写真に囲まれて、虫の世界を体験してみませんか？

(本展は博物館入場料のほかに特別展覧会観覧料が別途必要です)



⑤秋季特別展
追憶の熊本
～画家・甲斐青萍が描いた熊本城下の記憶～
10月5日(土)～11月24日(日)

熊本城大天守の外観復旧、ラグビー・女子ハンドボールの世界大会開催、熊本城ホールの完成など、2019年はさまざまなイベントが目白押しです。本展では、熊本出身の画家・甲斐青萍（1882-1974）が描いた江戸・明治・昭和の熊本城下の町並図屏風を手がかりに、加藤・細川治世から現代に至るまで、時代と共に劇的な変化を遂げてきた熊本城下にスポットをあてます。知られざる熊本城下の姿をじっくりとご観覧ください。

(本展は博物館入場料のほかに特別展覧会観覧料が別途必要です)



『昭和町並図屏風』(部分拡大・個人蔵)

⑥国立科学博物館連携事業
12月3日(火)～2020年1月26日(日)
生命のれきし
-君につながるものがたり-

地球が誕生してから46億年。地球やそこに住む生き物たちはどのような道のりを歩んできたのでしょうか。地球最古の岩石や、恐竜の全身骨格などの標本と一緒に、地球と生命のれきしをたどる46億年のものがたりへご招待します。



⑦企画展
2020年2月8日(土)～3月22日(日)
宮本常一が歩いた熊本

民俗学者・宮本常一（1907～1981）は戦後、日記で確認できる限り昭和30年代に十数回熊本に来ています。宮本が何処を訪ね、何に興味を持ったのか、写真や当時使っていたものを展示します。

2019年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
特別展示室1		①										
特別展示室2		きらめく！大名道具 - 細川家の「華」と「武」の世界 -		④ 大昆虫博 2019			⑤ 追憶の熊本				⑦ 宮本常一が歩いた熊本	
特別展示室3		②	③						⑥生命のれきし			

令和元年度（2019年度）学校教育支援【博学連携】事業：体系一覧表（※ 社会科・理科を中心に）

◎ 教材・学習材としての価値のある資料及び、学芸員・研究員の専門性（知識・技能等）を活用し、学校教育支援に資する。

	★【お迎え事業】★（メイン）	【お出かけ事業】（サブ）	（関連事業等）
児童 生徒 学生 （保護者）	○<u>館内学習支援活動</u> 『館内学習プログラム集』を活用し、学校団体利用時のオリエンテーション等において館内展示物（数点）の価値や魅力を紹介することで館内見学（学習）に関する興味・関心を高める。 ※<u>博物館⇄スクールシャトルバス事業</u> 社会科・理科学習が始まる小学校3年生または4年生を当館に招待し、未知・既知の学習資料の価値や魅力に触れる機会を提供することで新たな学びへの期待感を高める（H31年度は、先行的に植木・富合・城南地区の小学校中学年を対象に実施）。 ○<u>プラネタリウム学習投映</u>（宿泊教室時投映、館内学習時 他） ○<u>夏休みの自由研究相談会</u>（夏季休業中：土曜日2回） 7月20日（テーマ、方法等）・8月17日（採集物の同定、まとめ方） ○<u>職場体験（中学2年生：ナイストライ事業）受入れ</u>：数名 ○<u>博物館実習受入れ</u>：学生10～15名程度（8月下旬～9月上旬）※<u>塚原でも</u>	○<u>ゲストティーチャー派遣授業</u> 『派遣授業プログラム集』をもとに、博物館が有する価値ある資料及び学芸員・研究員の専門知識や技能を学習指導（授業）に活用し、子どもたちの学習意欲や問題解決能力の向上に寄与する。  お迎え事業：館内学習の様子  お出かけ：GT派遣授業の様子 ○<u>学年・学級PTA活動支援</u> 博物館で行っている講座や教室の内容に関連するPTA活動において、目的の達成や内容の充実に寄与する。例：『親子で楽しむ科学工作』等	○<u>子ども科学・ものづくり教室</u> 身の回りの自然事象に対する興味・関心を高め、楽しく活動しながら科学の原理や技術などについて学ぶ機会を提供。 ※不思議の種まき（ふしぎだね） ※学年・学級PTA活動支援（再掲） ※公民館講座等への協力  ○<u>プラネタリウム</u>（一般投映） ○<u>子ども向けGWイベント等</u> （○科学研究物等「受賞作品展示会」）
教師	○<u>教職員研修</u>（夏期講座：月曜日2回）7月29日・8月19日 『館内学習プログラムの解説編！その魅力や価値に迫る』 学習シートに掲載した資料及び、その他の活用資料について担当学芸員が解説を加え、各分野の展示物見学を通して館内学習の利用促進を図る。 ○<u>理科実験・事故防止講習会（実技指導）</u> ※指導課主催事業(5/8,10,15,28) 安全かつ適切な実験方法等について助言を行うと共に、実技指導を通して先生方の技能向上に寄与。  ○<u>教職員社会体験研修受入れ</u>：若干名	○<u>学校内での研修（校内研）支援</u> - 授業研究会への講師派遣 - 単元構成、授業構成に関する助言等 - 教材、教具等の開発支援 ○<u>環境教育指導者研修会への講師派遣</u> - 生物多様性、水と緑、SDGs  江津湖の生きものと環境	○<u>教員のための博物館の日</u> （8月8日）於：八代市立博物館 博物館が有する学習材・教材・人材等を先生方に知っていただく企画 （主催：熊本県博物館ネットワークセンター 共催：国立科学博物館 協力：県内各博物館・資料館等） ※当館も協力館として参加
関連他課 教育団体 所属学会 一般市民	学校教育支援事業を補完する諸活動を行い、博学連携の充実に図る。 ○<u>市教委指導課・教育センター主催の研修会協力</u>（実験事故防止、ICT等） ○<u>小中学校教科等研究会事業への協力【お迎え】</u> 会場提供（教科等主任会等）、講師参加 ○<u>博物館が所属する協議会等団体の講演会・会議等の実施及び参加</u>	○<u>小中学校教科等研究会事業への協力【お出かけ】</u> 自然観察会（理科巡検会）等の講師 ○<u>公民館講座、市施設開催講座への協力【再掲：博社連携の一環】</u> ○<u>家庭教育学級等への協力・支援</u>（講師参加：環境、科学工作等）	※<u>塚原でも実施</u> ○<u>各種展示会開催</u> （特別展・企画展・連携展示会等） ○<u>各種講座開催</u>（各学芸員） ○<u>市内外関連施設との連携【博社連携】</u>